

感謝祈禱

輔司詠

君や、祝讃せよ。
光栄は一體にして生命を施す分れざる聖三者に恒に帰す、今も何時も世世に。
アミン。

天の王慰むる者や、真実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、萬善の寶藏なる者、生命を賜うの主や、来たりて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

誦

聖三祝文、至聖三者、主經

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は来たり、爾の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導かず、猶我等を凶惡より救い給え。

蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。

主憐めよ (三次)。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

来たれ、我等の王神に叩拝せん。

来たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

来たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第百十七聖詠

主を讃栄せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐みは世世にあればなり。イズライリの家今言うべし、彼は仁慈なり、其憐みは世世にあればなり。アアロンの家今言うべし、彼は仁慈なり、其憐みは世世にあればなり。主を畏る者今言うべし、彼は仁慈なり、其憐みは世世にあればなり。我狭きより主に呼びしに、主は我に聆きて、我を廣き處に引き出せり。主は我を護る、我懼れざらん、人何をか我に為さん。主は我を助くる者なり、我我が敵を見ん。主を侍むは、人を侍むより善なり。主を侍むは、牧伯を侍むより善なり。萬民我を圍みたれども、我主の名を以て之を敗れり、彼等我を圍み、我を環りたれども、我主の名を以て之を敗れり、彼等の我を圍みしは、蜂の其巢を圍むが如く、其消えしは、棘の火の如し、我主の名を以て之を敗れり。彼等強く我を推して、我を仆さんと欲したれども、主は我を扶けたり。主は我が力、我が歌なり、彼は我が救となれり。義人の住所に歡と救との聲あり、主の右の手は力を顕わす、主の右の手は高し、主の右の手は力を顕わすと。我死せず、猶生きて主の作為を傳えん。主は厳しく

我を罰したれども、我を死に付さざりき。我が為に義の門を闢け、我之に入りて主を讃栄せん。是れは主の門なり、義人等之に入らん。我爾を讃栄す、蓋爾は我に聴き、我の救となれり。工師が棄てたる石は屋隅の首石と為れり、此れ主の為す所にして、我等の目に奇異なりとす。主は此の日を作れり、我等之を以て歡び樂まん。嗚呼主よ、救い給え、嗚呼主よ、助け給え。主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、我等主の家より爾等を祝福す。主は神なり、我等を照らし、繩を以て牲を繋ぎ、牽きて祭壇の角に至れ。爾は我が神なり、我爾を讃栄せん、爾は我が神なり、我爾を讃栄せん、爾は我が神なり、我爾を讃栄せん、蓋爾は我に聴き、我の救となれり。主を讃栄せよ、蓋彼は仁慈にして、其憐みは世世にあればなり。

光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光荣は爾に帰す。(三次)

我等安和にして主に祈らん。

主憐めよ。（以下毎次同様）

上より降る安和と我等が靈の救の為に主に祈らん。

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祈らん。

此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の為に主に祈らん。

教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、

司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祈らん。

我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に祈らん。

此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て此の中に居る者の為に主に祈らん。

氣候順和、五穀豊穰、天下泰平の為に主に祈らん。

航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、虜となりし者、及び

彼等の救いの為に主に祈らん。

慈憐を以て、我等不当なる諸僕（婢）の今の感謝と祈祷とを其天上の祭台に受けて、仁慈によりて、我等を憐むが為に主に祈らん。

我等其不当なる諸僕（婢）が、主より受けし所の諸恩の為、謙卑の心の中に献ぐる所の感謝を否まず、即ち之を芳ばしき香炉と肥たる燔祭の如く入れ給うが為に主に祈らん。

今も我等其不当なる諸僕（婢）の祈りの声を聞き入れて、常に其忠信なる者の善き志と望とを善なる方に成就し、其広恩なるに因りて、常に我等に恩を施し、其聖なる教会と凡その忠信なる諸僕（婢）とに願う所を賜わんが為に主に祈らん。

祈らん。

其聖なる教会（及び其諸僕（婢））と我等衆人とを、諸の憂愁と禍害と忿怒と

危難、及び悉くの見ゆると見えざる諸敵より免しめ、壮健と長寿と平安及び

神使の軍を以て、其忠信の者を常に巡り守るが為に主に祈らん。

神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ。

至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光荣の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、

諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の

生命を以て、ハリストス神に委託せん

司 蓋凡そ光榮尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。
詠 アミン。

主は神なり

輔 主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。

詠 主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。(三次)

輔 (句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐は世世にあればなり。

詠 (句) 彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。

輔 (句) 我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。

詠 (句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

トロパリ(第四調)

詠 主や、我等爾の不当の僕婢たる者、爾の大なる恩を被るに由りて、感謝の心を抱き爾を尊み歌い讃め揚げ感謝し、爾の仁慈を崇め、僕の謹み且つ愛を以て爾に呼ぶ、我等に恩を賜う救世主や、光榮は爾のもの為りと。

輔 光榮は父と子と聖神に帰す、

詠 主宰や、我等至つて当たらざる僕婢、爾の恩と賜物とを被りて、熱心を以て爾に走りつき力に応じて感謝を献り、爾を恩を賜う主と造物主たるを讃め揚げて呼ぶ、至つて廣き恵の神や、光榮は爾のもの為りと。

輔 今も何時も世世に、アミン。

詠 ハリストイアニン等の助けなる神の母や、爾の僕婢、爾の転達を得て、感謝の心を抱き爾に呼ぶ、至つて潔き神を生みし処女や、慶べよ、独り疾く転達する者や、爾の祈祷を以て我等を凡の苦難より常に救い給え。

輔 謹みて聴くべし。

詠 衆人に平安。

輔 爾の神にも。

詠 睿智。

ポロキメン

輔 われおん
詠 我恩を施す主を讃め頌い、至上なる主の名を崇め歌わん。

我に恩を賜いし主を崇め頌い、至上の主の名を歌い讃めん。
我が心爾の救いを喜ばん。
我に恩を賜いし主を崇め頌い、至上の主の名を歌い讃めん。
我恩を施すの主を讃め頌い、至上の主の名を歌い讃めん。
睿智。
聖使徒パウエルがエフエス人に達する書の読み。
慎みて聴くべし。

書 札 (エフエス書 五・ハ一一九)

「兄弟よ、光の子の如く行え。蓋神の実は凡その慈愛と公義と眞実とに在り。
爾等神の悦ぶ所の何なるを審にせよ、實を結ばざる暗昧の行に與る勿れ、
寧ろ之を責めよ。蓋彼等が隠に行う事は、言うも亦耻ずべし。凡そ責めらるる
事は光に由りて顯る、蓋凡そ顯るる事は光なり。故に云えるあり、寝ぬる者起
きよ、死より復活せよ、ハリストス爾を照らさん。是を以て視よ、行を慎み

て、無智の者の如くせず、乃智ある者の如くせよ、時を惜むべし、日は悪しければなり。是の故に思慮なき者と為る勿れ、乃神の旨の何なるを學れ。又酒に酔う勿れ、此に由りて放蕩あり、乃神に満てられよ。聖詠と歌頌と属神の詩賦とを以て、口に唱え、心に和して、主を讃美せよ。」
アイルイヤ、アイルイヤ、アイルイヤ。
睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。
衆人に平安。
爾の神にも。
ルカ伝の聖福音經の読み。
主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。
謹みて聴くべし。

福 音 (ルカ伝 一七・二一一九)

「彼の時、イイスス或る村に入りしに、癩病者十人彼を迎え、遠く立ちて、
を揚げて曰えり、イイスス夫子よ、我等を憐め。イイスス彼等を視て曰えり、往

きて、己を司祭らに示せ。彼等往く時潔まれり。其中一人、己の癒されしを見て、返りて、大聲を以て神を讃榮し、イイススの足下に俯伏して感謝せり、彼はサマリヤの人なり。イイスス曰えり、潔まりし者は十人に非ずや、其九は何処に在るか、此の異族人の外、如何ぞ返りて光榮を神に帰せざる。又彼に謂えり、起ちて往け、爾の信は爾を救えり。」

主や、光榮は爾に歸し、光榮は爾に歸す。

重 聯 禱

輔 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。
詠 主憐めよ。(三次) 「以下毎時同様」
輔 又我が国の天皇、及び国を司る者の為に祈る。
輔 又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。
輔 主宰、主我等の救世主や、我等不当の僕(婢)として、畏れ戦き爾が豊かにそ

輔 の主の諸僕(婢)に注ぎたる諸恩の為に爾の仁慈に感謝して俯伏し、爾に神に適いたる讃揚を奉り、傷感の情をもつて以て呼ぶ、爾の諸僕(婢)を諸の禍より免しめ、其慈憐なるに因りて、常に我等衆人の善き望を適え給え、熱心にして爾に祈る聆き納れて憐めよ。

輔 主や、今慈憐を以て爾の諸僕(婢)の祈禱を聆き納れて、彼等に爾が仁慈の恩恵を顕せし如く、此より後も爾が忠信の者の凡その善き願を退けずして、爾が光榮の為に此を成就し、我が諸罪を問わずして我等衆人に爾の豊なる仁慈を顕し給え、爾に祈る聆き納れて憐めよ。

輔 至善なる主宰や、願わくは此の我等の感謝は、爾の威嚴なる光榮の前に芳ばしき香炉の如く、肥えたる燔祭の如く入れらるものとならん、其廣恩なるに依りて、常に爾の諸僕(婢)に豊なる仁慈と恩恵とを遣わし、爾の聖なる教会(此の町、或いは此の家)を凡そ見ゆると見えざる諸敵の攻撃より免しめ、爾の衆人に罪なくして健なる長寿及び萬徳に於ける進歩を與え給え、至りて廣恩なる主や、爾に祈る、慈憐を以て、聆き納れて速に憐めよ。

司 神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃や、我等に聞き給え、主宰や、

我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐み給え、蓋爾は仁慈にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

アミン。

主に祈らん。

主憐めよ。

祝 文

主イイスス・ハリストス我等の神、凡その慈憐と廣恩との神や、爾の仁慈は極め難く、爾の仁愛は測り難き海の如し、我等不当の僕（婢）として畏れ戦き、爾の威嚴に俯伏し、爾の諸僕（婢）に施せし諸恩の為に、今謙卑の心を以て爾の仁慈に感謝を奉り、爾を主宰・主・恩者として讃め崇め歌い尊み、又俯伏感謝して、謙卑の心を抱きて爾の測り難く言い難き仁慈に祈る、今爾が諸僕（婢）の祈りを受けて、慈憐を以て此を成就せしが如く、此より後も、爾と近者とに於ける愛及び凡その徳に進む所の爾の忠信の者に爾の恩恵を施し、爾の聖なる教会及び此の町（或いは此の家）を諸の禍より免しめ、是れに平安と穩静とを與えて、爾と爾の

無原の父と、至聖至善なる爾の一性の神と、一體に於いて讃揚せらるる神に、常に感謝と讚美と歌頌とを奉ることを得しめ給え。
〔高聲〕 光榮は爾、神、我等の恩主に世世に帰す。
アミン。

大 詠 頌

（聖歌譜に倣つて）

至高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人に恵は臨めり、主天の王、神父全能者や、主独生の子イイスス・ハリストス及び聖神や、爾のたいなる光榮に因つて、我等爾を崇め、爾を讃揚げ、爾を伏拝み、爾を尊歌い、爾に感謝す、主神や、神の羔父の子、世の罪を荷いし者や、我等を憐み給え、世の諸の罪を荷いし者や、我等の祈りを納れ給え、父の右に坐する者や、我等を憐み給え、爾は独り聖なり、爾は独り主イイスス・ハリストス神父の光榮を顯す者なればなり、アミン。

我日々に爾を讃揚げ、爾の名を世世に崇め歌わん。

主や、我等を守り、罪なくして此の日を渡らせ給え、主我が先祖の神や、爾は崇

め讃められ爾の名は世世に尊み歌わる、アミン。

主や、爾を待むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給え。

主や、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え。(三次)

主や、爾は世世、我等の避所たり、我嘗て言えり、主や、我を憐み、我が靈を癒し給え、我罪を爾に得ればなり。

主や、爾に趨りつく、爾の旨を行うを我に教え給え、爾は我の神、生命の源は爾に在ればなり、爾の光に於いて光を見ん、憐を爾を知る者に恒に垂れ給え。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

聖なる常生の者や、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。

※「大詠頌」に代えて、欲すればメデオランの主教聖アムブロシイ作の左の歌を歌う。

我等爾神を讃め揚げ、爾主を崇め讃む、全地は爾永遠の父を尊む、衆神使と諸

天と衆軍とヘルワイムとセラフィム等は絶えざる声を以て爾に呼ぶ、聖、聖、聖なる哉主神サワオフ、天地は爾の威嚴なる光榮に満つ、至りて光榮なる使徒の会、讚美たる預言者の隊、光明なる致命者の軍は爾を讃め揚げ、聖なる教会は全世界に於て、爾悟り難き威嚴の父、拝まるる爾の眞の独生子、及び撫恤者聖神を崇め讃む。ハリストスや、爾は光榮の王、爾は父の永在の子なり。爾は人を救わんと欲して童貞女の腹を忌まざりき。爾は死の針を折りて、信ずる者の為に天国を啓けり。爾は父の光榮に在りて、神の右に坐し、我等は爾が審判者として来らん事を信ず。故に爾に求む、爾が尊き血にて贖いし爾の諸僕(婢)を助けて、爾の諸聖人と偕に、爾の永遠の光榮に王たらしめ給え。主や、爾の民を救い、爾の業に福を降し、之を改めて、世世に挙げ給え。我等日々に爾を讃め揚げ、爾の名を世世に崇め歌いて、今より永遠に至らん。主や、我等を守り、罪なくして此の日を渡らせ給え。主や、我等を憐み、我等を憐めよ。主や、爾を待むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給え。主や、我等爾を待めり。願わくは世世に辱を受けざらん、アミン。

輔 睿智。^{えいち}

司 至聖なる生神女や、我等を救い給え。

詠 ヘルワイムより尊くセラフイムに並びなく栄え、貞操^{みさお}を破らずして神言^{かみことば}を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む^ほ。

司 ハリストス神我等の恃^{たのみ}や、光荣は爾に帰す、光荣は爾に帰す。

詠 光荣は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。
福を降せ^{あぐくくだ}。

司 ハリストス我等の真の神は、其至浄なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亜使徒日

本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善
にして人を愛する主なればなり。

詠 アミン。

幾 歳 も

輔 主よ、今此處^{ここ}に立ちて祈る爾の諸僕（婢）〔某〕に、萬福^{ばんぷく}にして平安なる度生^{どせい}、

壮健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與^{あた}えて、彼（等）を幾歳^{いくとせ}にも護り給え。

詠 幾歳も。（三次）